

2 計画改定のポイント

改定の主な内容は以下のとおりです。

- 計画期間を令和4年度からの10年間とします。…P4 参照
- 計画対象橋梁数を前回計画の37橋から、平成28年度に新設された船入場橋を含めた38橋に変更します。…P7 参照
- 平成31年に改定された道路橋定期点検要領・橋梁定期点検要領に基づき、健全性の診断を行いました。また、前回計画で診断に用いていた土砂詰まりや落書きなど日常の維持工事で措置が可能と判断できる損傷は橋の安全性能や耐久性能に直接的に影響を与える損傷でないため、診断に用いないこととしました。…P16 参照
- これまで橋梁の寿命（耐用年数）を100年とし、劣化予測により修繕計画を策定してきましたが、定期点検が二回目となったことから、点検データの蓄積ができたため、将来的な劣化の進行を予測する方法を見直し、10ヶ年修繕計画とライフサイクルコストを修正します。
⇒その結果、予防保全型の50年間の累計事業費が前回計画と比べ、約14億円縮減できました。…P24,31 参照
- 労務費や材料費の高騰を考慮し、補修工事実績や最新の積算基準等を用いて補修単価の一部について見直しを行います。また、跨線橋の対策に要する費用の見直しを行い、コスト算定を行います。…P29 参照
- 令和2年度の定期点検結果（健全性の診断結果）を修繕計画に反映します。
…P30 参照
- 令和3年に改正された国の補助制度を踏まえ、新技術（点検支援技術性能カタログ（案））の活用についての項目を追加します。また、新技術の活用や集約・撤去について、短期的な数値目標（取組内容、期間、目標数値）を設定します。…P32 参照

【注記】

※：寿命設定による劣化予測（※1）から点検結果の統計分析による劣化予測（※2）に見直しました。

※1：寿命設定による劣化予測

橋梁各部材毎に寿命（耐用年数）を設定し、建設時点あるいは補修時点を「健全」、寿命時点を「要補修」段階として、予測直線又は曲線を作成する方法です。

※2：点検結果の統計分析による劣化予測

点検結果に対応する健全度と経過年の関係を統計分析することで、予測直線又は曲線を作成する方法です。

計画対象橋梁の点検結果である実態に基づく分析であり、区が管理する橋梁の状況（橋梁規模や環境条件など）を反映した劣化予測が可能となります。